第八卷（第五號一〇二）　六八八

時事問題

食糧增產ト開墾

戸田海市

一

國民の生活程度の向上と人口增加とに因り食糧に對する需用が增加して其價格が騰貴すれば、農業に對する資本勞働の投下を增加して生產高の增加が行はれるのであるが、其增產に付ては既耕地の利用を集約にするの方法が行はれると同時に、未耕地の開墾耕作の方法も行はれる、理論上既耕地に投下せられたる最後の一定量の生產費に由て得る所と、新たに未耕地の開耕に投下せられたる同量の生產費に由て得る所とが常に同一の大さとなるが如くに、一國の資本勞働が內延的と外延的とに分配投下せらるゝ筈である。併し廣大の未開國の開拓時代には移住開拓者が頗ふる粗大な冒險的氣風を有し、其結果として土地利用が過度に外延的となるの傾向あるが如く、人口稠密なる舊開國に於ては反對に土地利用が過度に內延的卽ち集約的となるの傾向が現はれる。

人口稠密なる我國の田畑は六百萬町步以內に止まつて開墾適地が多大に殘存し、其面積は既耕地の三分の一にも達する大さであり、特に右くより開けたる西南地方が過度の集約となれるに反し、東北地方には多大の未耕地が殘つて居るが、是には種々の原因があつて、必しも國民一般就

中農民か保守的となつて外延的又は膨脹的氣風を缺くか爲めのみてはない。先つ全國一般に亘つて既耕地と未耕地との關係を見るに、第一我國民の主食物は頗ふる單純であつて、生活程度の高まるに從ひ益米食の一方に偏し、從つて田地の耕作の如く畑地の耕作は有利でない、之か爲め從來灌漑の便を有する土地は田地として盛んに利用せらるゝに反し、灌漑の便なき土地は未耕地として多大に殘存して居る。國民か米食に偏傾せる爲め此等の未耕地は既耕地に比して著しく生産力か劣り、耕界以下の土地となつて居るのてある。故に今後國民の主食物か麥食及肉食の方にも大に進歩しなれは、未耕地を開墾することは頗ふる困難てある。第二に各農家か既耕地を集約に利用することは容易てある。例へは一家の勞働に三五日分の過剰を生し又は其資本に五圓十圓の餘裕を生すれは現に耕作しつゝある土地に之を投下することは容易てあるが、之を未耕地の利用に投下することは困難てある。多くの場合に未耕地の所有權か他人に屬し、又其地位も既耕地と隔離して往復の爲め徒らに損失を蒙むる。又幸に此等の障碍の存せさる場合に於ても、經濟的に開墾を行はれんとすれは僅かに五坪十坪の小地積の開墾は不適當てあり、一反歩内外を開墾して合理的に作業することを利益とする、從つて微小なる資本勞働の餘裕を生するも之を開墾の爲めに利用することは困難てあるが、貧困なる一般農民の餘裕を生するは微小の額に止まる。又既耕地の利用を集約にする場合には其年内に於て直ちに收穫の增加を生することを常とする。然るに今日内地に殘存せる未耕地は北海道に於て往々見る如く非常に肥沃のものてなく、從つて開墾後數年間は投下資本に對して充分の收入か得られない。是れ亦資本の乏しき一般農民の開墾を行ひ

難き所以である、第三に既耕地を集約に利用するの方法を採る場合には、農產物の價格下落の爲め資本勞働を多く農業に投下することを不利とすれは、農家は其資本勞働の一部を他に轉用し例へは勞働の餘裕を副業に轉し、資本の餘裕を預金とするが如き方法を採るの餘地を有する。然るに本來粗放に利用せられつゝある劣等の新開地に於ては、苟くも其耕作を停止せざる限りは農產物下落の年にも多く生產費を縮小することが困難である。而して我國の農產物の價格は非常なる動搖を繼續して一般に農業を危險ならしめるのであるが、此危險は特に生產力の劣等なる新開地に於て重大である。

次に西南地方に比して東北地方に未開地の割合の甚だ大なるは、此地方が經濟上及社會上に著しき不利を有する爲めである。先づ其經濟上の不利に付て見るに、我國の農業は前述の如く米作を主とする故、米作に不利なる地方は農業上一般に不利の地方である。東北地方は他の地方に比して水利の不便大なる爲めに米作に不利なりと云ふを得ざるべきも、其氣候の寒冷なる爲めに米作に不利である。東北に於ても晩稻を作れば相當の收穫がないではないが、數年に一回氣候早冷の爲めに大凶作を來たす。此危險を免るゝ爲めに早稻を作れば收穫が少なく、又早稻晩稻を問はず一體に其產米の品質も氣候の關係上劣等であり、從つて其價格も低い。加之西南地方にては二毛作も汎く行はれ、又農業に附隨し若くは之と獨立せる種々の副業も盛んに行はれて、閑暇の時間就中冬季間の勞働を利用し易きに反し、東北にては長き冬季間を利用して收入を得ることが困難である。氣候の寒暖と云ふ天惠上の差別は金錢に見積り難き重大なる生活上の幸不幸を生ずるも

のであるから、人口稠密なる西南地方の人民は、東北に於て非常の遺利がなくては移住するを欲しない。尙ほ人口稀少にして商工業の幼稚なる東北地方に於ては農民が其生産物を販賣するにも需用品を購買するにも大なる不利がある。更に東北地方は一體に文化の程度が低いから、其住民が公私各般の社交的生活の利益を受くることも少ない。卽ち其住民が社交生活より受くる無形の分配が少ない。此無形の分配なるものも人の生活に取つて金錢に見積り難き大なる價値を有することは多言を要しない。左れば人口稀薄又資本貧弱なる東北地方より、動もすれば其人口と資本とが舊開の西南地方又は特別に遺利の大なる北海道に流出するの傾向がある。此等の事情よりして東北の開墾を進めることは決して容易の業でない。特に其一般の經濟及文化の狀態を今日の儘として急激に土地の開墾のみを增加せんとすれば、巨大の費用を投せねばならぬ。而も此の如く人爲的に促進したる此新開地の農民の生活は頗ぶる困難であつて、憂ふべき農村社會問題を惹起するを免れない

二

未耕地の開墾を行ふには自墾自耕の小規模のものと、目下計畫中の帝國開墾會社の如き大規模の開墾とがある。我國の農業は耕地所有權の集散の如何を問はず一般に小規模の經營を適當とし、大農を行ふことが困難であるから開墾も概ね小規模の自墾自耕を適當とする。大規模の開墾を行ふも之を耕作する爲めには、自作農に開墾地を賣渡すか又は大地主が之を所有して小作農に之を貸渡すの外はない。帝國開墾會社は其開墾地を自から所有せず之を自作農に賣渡すか、又は所在

の町村に之を賣渡すことを目的とするものであるが、之を讓受けたる町村も更に之を自作農に轉賣するか、又は之を小作農に貸渡すことを要するは勿論である。此會社は重に東北地方に於ける廣大の未耕地を開墾せんとするものであるか、東北に自作農を徊徠することは既に述へたるか如き事情に由り頗ふる困難である。特に此新開地に於て一家の生計を支ふるに足る二三町歩以上の田畑を買入るゝ資力のある農民は容易に其鄉土を去つて新開地に移らない、故に自作農に其開墾地を賣渡さんとすれは土地代金の主なる部分に付て融通を行ふことを必要とする。此金融は開墾會社か新たに之を行ふよりも、在來の不動產銀行に依賴することを利益とするであらうが、併し開墾地の代價を頗ふる低廉にするにあらされは、信用に依賴して之を買入れたる自作農の年賦償還は甚た困難である。然るに新開地の前途は既耕地と異りて頗ふる不安定であり、又之を買入れたる農民の少なからさる部分は他地方よりの移住者であつて其信用の程度も不明であり、特に其地方に生れたる者の如く大なる地方的執着力や融和同化性を有たぬ者であるから、不動產銀行か之に對して融通する場合には特に其條件を嚴重にせねは不安心である。然るに此の如く融通の條件を嚴重にすれは新開地に自作農を作ることか困難である。若し帝國開墾會社にして豫定の如く十五年間に二十五萬町歩と云ふか如き急速の開墾を行ふて速かに之を處分せんとすれは、其開墾地の大なる部分を所在町村に讓渡し、町村は又其主なる部分を小作農に貸渡すことゝなるであらうか、此場合に町村は小作人の取扱上非常の困難に陷るの危險かある。

是に由て見れは大規模の開墾を東北地方に行はんとすれは多數の小作農業を作るの外はない。

小作農を徂徠することは自作農の如くに困難てないとは云へ、一地域に五十家百家の小作農民を集めて新部落を建設することは、彼の工場を建築して多數の勞働者を集めるか如くに簡單なものてはない。土地を小作農に貸渡して地代を徵收することは重大なる信用取引を行ふものてあつて、累世一村落に住居する者の間には、此取引か割合に圓滑安全に行はれ得るか、諸方面より新たに小作農を招く場合には、確實の小作農を得ることか甚た困難てある。又此新開地に來住する小作農は新村落を建設する主人公となるのてあるから、自治團体を作るに適當の性格を有する者てなくてはならぬか、是亦甚た困難事てある。從來稍大規模の開墾を行ふて諸方より小作農を集めた場合に、其大部分か不良分子てあつて難治の部落を造り出し、之か爲めに開墾事業の失敗に歸した例か往々にある。食糧增產も必要てあるか、併し其增產の爲めに難治の貧村を作り出すの弊害は更に重大てある。今日社會問題は獨り都會勞働者の間のみならす、農村の小作人の間にも起つて居る。故に農業に於ても生產方面のみに注意するを以て足れりとせす、農民の社會狀態の改善にも努力せねはならぬ。若し開墾補助の主たる目的か帝國領土內に食糧を增產することに在りとするならは、內地の開墾を促進するよりも朝鮮臺灣の農業の改良と其耕地の擴張とを以て遙かに有效とすることは爭はれない。又開墾補助制度の目的か健實なる自作農を作ることに在りとすれは、既に述へたるか如く失敗に了り、難治の貧村を作り出たす危險か大てある。加之人爲的に劣等地の開墾を促進して其耕作に從事する農民の生活難を生するときは、此開墾補助の根底に橫はる所の自給自足主義よりして、更に農產物輸入稅を增加するに至ることか必至の勢てあるか、此輸入稅

增加は更に都會勞働者の生活難と云へる社會問題を生する原因となる。此事たる一般の開墾補助制度に付ても主張し得る所であるが、特に經濟上社會上重大の不利ある東北地方に於て急速に大規模の開墾を行はんとすれは、獨り國庫か不相當に大なる經費を負擔するの必要あるのみならず、其開墾地に重大なる農村社會問題を生することを免れない。最も東北地方の未耕地の中にも特に有望の土地か殘存して居る場合もあるてあらうが、此の如き土地に對しては宜しく地方行政上より道路を開設し又は灌漑の施設を爲して、自然に開墾者の現はれ來るを待つことを得策とする。國庫補助に由て大規模の開墾會社を設立し、不自然に急速の開墾を東北に行はんとすることは甚だ危險てある

目下議會の問題となれる開墾助成法は五町歩以上の開墾者に對して開墾成功後四年まて六歩の開墾費補給を爲し、之に由て十五年間に二十五萬町歩の田畑を作る見込てあつて、一反歩に對する補助は十八九圓の見積りてある。然るに資本金三千萬圓の帝國開墾會社に對しては、損失を塡補した上に八歩の配當補給を行ひ、之に由て十五年間に更に二十五萬町歩の開墾を行はんとするのである。政府の見込に由れは實際此會社に交付する補助金は六百萬圓を以て足り、從つて一反歩の開墾に對する補助の割合か僅々三圓以內に止まると云ふのであるが、此見込は餘りに樂觀に過きることは既に述へし所に由て明かてある。此會社は損失の塡補を得たる上に八歩の配當を保證せられる故、假令へ政府の監督の下に行動するとは云へ、自然に不利益なる開墾をも行ひ、少くとも損失を厭はすして豫定の二十五萬町歩の開墾を行はんとするの傾を有し、萬能力を有せさる政

府の監督か之を防止することは困難である。故に此會社に對する補助額か實際に六百萬圓の小額に止まるへきやは疑問であるのみならず、不自然に急速の開墾を行ふの結果は前述の如く農村社會問題を發生せしむるの危險大なるに反し、開墾助成法に由る開墾は一般農民か自己の利害より打算して開墾を進めることゝなる故、社會上有害の結果を生するの危險は少くない。只た此助成法に由り十五年間に於て自然の開墾增加の外に新たに二十五萬町歩の開墾を爲し得るや甚た疑問である。此助成法に由る國庫の支出見込高は五千萬圓近くに達するか、此金額を朝鮮臺灣の農業の改良擴張に費すときは、其增產の結果は內地開墾助成に比して遙かに大なるものとなるであらう

三

從來我農業の發展は既耕地に對して大に集約的となると同時に、僅か乍ら開墾も行はれ、其面積は近年二萬町歩近くとなつて居る。故に此自然的の開墾の外に開墾助成法に由り十五年間に二十五萬町歩を開墾するときは、開墾の速度を倍加することゝなる。更に帝國開墾會社を補助して同程度の開墾を行ふときは、開墾の速度を急に三倍に增加することゝなる。農業發達の爲めに政府は年々巨額の經費を投して居り、現に特種の開墾とも稱すへき耕地整理に對しても補助金を與へて居るのであるから、未耕地の開墾に對して補助を與へることは、形式上より見れは何等異とすへき點はないやうてあるが、併し耕地整理は耕界以上に在る既耕地の生產力を增加することてあるに反し、補助に由る未耕地の開墾の場合には其土地か辛ふして耕界に位し得るに止まり、從つて

開墾費を之に投すれは收支相償ひ難き土地を補助に由り人爲的に耕界內に入れることゝなるを通例とする。政府か開墾後數年間補助を與へて之を奬勵するときは、世人は將來の農產物と地價の騰貴及耕界の低下を豫想して動もすれは耕界以下の劣惡地までも開墾せんとする。特に帝國開墾會社に對する補助の如き方法を採るときは、遙かに耕界以下に位する劣惡地を開墾するの危險か多い。我國の主要農產物たる米の價は永き年月に亘つて見れは諸物價に比して騰貴の傾向を有するから、之に伴ふて耕界も次第に低下するの傾向ありと云へ、一面に工業の進步に促かされて農業勞働の不足と騰貴とか次第に著しくなる傾向か强いから、今後米價の騰貴に正比例して耕界か低下すると云ふを得ない。又論者は今日の未耕地の內には耕界以上の優良地か存存し、特に官有林野の中に此の如き開墾有望の土地か存在することを主張するが、若し此の如き事實ありとすれは、須らく官有地の拂下を行ひ、又其土地に對する交通水利の施設を爲すことを要するが、其れ以上に個々の開墾を補助することは適當てない

此の如く耕界の下ることか遲々たりとすれは、國庫補助に由り開墾の自然の速度を二倍し三倍するか如きは甚た危險てある。新開地の農民の多數か困難に陷れは更に國家の保護を請求するてあらうが、開墾を奬勵したる國家は折角開墾せられた土地か再ひ荒蕪に歸することを防く爲めに其請求に應せさるを得さるに至るの危險かある。今日は米價か暴騰して居るか、後日再ひ米價の暴落か繼續して一般農民を困難に陷るゝの時期か來ることは殆んと疑を容れない。此の如く米價暴落の繼續する場合に最も困難に陷る者は、辛ふして耕界に位し又は其以下に在るか如き新開地の

耕作に從事する農民てある。今後我國は農村社會問題に對しても充分の努力を爲すの必要かあるが、今日急速に開墾を增加することは決して農村の社會收態を改善する所以てない。或は今回の開墾助成は食糧增産の外に、自作農を作ることに由り社會的改善を行ふものてあると云ふ說もあるが、併し自作農を作るには別に適當の方法か存在し、開墾の促進は寧ろ反對の結果を生する。元來開墾補助制度の根本の目的は食糧自治てあるが、此點に付ては既に本誌に論したる如く予輩の承認し得さる所てある。今後の我國は成るへく直接間接に外米を利用することを以て根本方針とせぬはならぬ。又今日の如き米價暴騰を機會として國民の米食偏傾慣習を改め、成るへく麥食其他の雜食を秩序的に發達せしむることに努力せねはならぬのてあるが、麥雜穀の類も之を內地に增産するよりは輸入を爲すことか概ね有利てある。世界的戰爭に伴ふて起れる特別の事情に基いて永久の食糧自給策を立つることは甚た當を得さる措置てある

我國は從來外米其他の農産物に輸入稅を課して內地農業を保護する政策を採り、卽ち或程度まて食糧自給主義を行ひつゝある故、今日に至つて開墾補助の如き制度か主張せらるゝことは怪むを要しない。故に我國の食糧政策を確立する爲めには先つ以て農産物輸入稅の永久的撤廢を斷行せねはならぬ。我國民は世界に於て最も高價の食物を消費しつゝあるから、食物を低廉豐富ならしむることか社會政策として最も重要てある。予輩は上述の如く一般に開墾補助の制度に反對する者てあるが、不幸にして此制度か成立するときは尙更ら一面に農産物輸入稅の永久的撤廢の國是を確立することを急務とする。何となれば此輸入稅を認めつゝ一方に於て開墾補助に由り人爲的

に開墾の速度を二倍三倍に高むるときは、開墾か過度の劣惡地にまて擴張せられ、從つて補助の終了と同時に新開地の農民の困難を生して、之を救濟する爲め更に輸入稅の增加か主張せらるゝに至るは避け難き勢てあるからてある。又我國の主要農產物たる米の價か循環的に暴騰暴落を繼續して靜平を保つことか少なく、之か爲めに一般消費者の生活を不安ならしむるのみならす、人口の過半を占むる農民の生活をも不安ならしめて居る。故に食糧政策として重要なるは米價安定の方法を講することてある。前に述へし如く農民の中て此米價の大變動に由り最も不安を感する者は新開地の農民てあつて、實に我米價の變動は開墾の自然の發達を妨くる重大原因となつて居る。故に當局にして開墾助成の制度を立てんとすれは、必らすや同時に米價安定の方法をも講すへきてあるに、此點に附ては何等の方法も講せられない。是に由て見るも今回の開墾補助の計畫か戰時の變調として生したる米價暴騰と、同しく戰爭の產み出したる自給自足思想とに原因する未熟の計畫てあることか知られるのてある。尙ほ外米輸入稅の撤廢か我米價安定の重要の一方法たることは曾て論した如くてある。故に其撤廢は不自然なる開墾を抑制するのみならす、一方には時勢の必要に迫られて行はるゝ所の自然的の開墾を安固ならしむるの作用を有する

以上を草し了りし後議會に於て開墾助成法は兩院を通過したるも、帝國開墾會社補助案は貴族院の否決の爲め不成立となり、從ふて會社設立の計畫も廢止せられた。而して世人か此會社補助に反對する理由を見るに、開墾助成法に由る補助の割合は開墾費の六步にして、補助年限も開墾成功後四年までに止まるに反し、帝國開墾會社に對しては八步の配當を保證し、其年限も十五年

の永きに及ふことは、公益を標榜して起れる會社に對する保護としては過大不公平なりと云ふことである。故に若し之に對する補助の割合と年限とを相當に低下したならは、世論は必しも強く之に反對しなかつたかも知れぬ。又両院を通過した開墾助成法の保護に滿足して大開墾會社か起つたならは、世人は大に之を歡迎したかも知れぬ。併し上に述へたる如く誤れる食糧自給主義よりして經濟上社會上の不利大なる東北地方に不自然なる急速の開墾を行ふときは、一面開墾地に於て難治の貧村を作り出し、重大なる農村社會問題を惹起するのみならす、他面には新開地の農業を救ふか爲め農產物輸入稅引上の運動を生じ、以て益我國の食糧政策を誤れる方向に推進するの危險か甚た大てある。故に開墾會社に對する補助の大小を問はす此計畫は不當てある。若し特志の富豪にして國民の食糧問題解決の爲め何等國庫の補助を受けすして大規模に東北地方の開墾を行はんとする者かあるならは、予輩は彼等に向つて其資金を朝鮮臺灣の農業の改良擴張に投下するの遙かに有効なることを告けんとする者てある。